

# 台風に対する農作物の技術対策

2019年10月8日  
営農経済部

週末にかけて大型台風19号が接近する見込みです。京都府でも激しい雨と強風が予想されますので、農作物や施設管理の徹底を図りましょう。

## 1 普通作物

### 1) 水 稲

#### (1) 事前対策

- ① 大雨に対応できるよう、用排水路の点検・整備を行う。
- ② 収穫がまだの場合は可能なかぎり早めに刈り取る。

### 2) 豆類

#### (1) 事前対策

- ① 水田では用排水路の点検・整備を行い、ほ場への水や土砂の流入を防止する。また、排水溝の整備や畔を切るなど排水対策を講じておく。

#### (2) 事後対策

- ① 滞水、土砂の流入があった場合は、湿害や根腐病の発生を助長するため、速やかに排水対策を講じ、根の機能回復を図る。必要に応じて薬剤防除（アミスター剤）ラベルの確認を行う。

## 2 野 菜

### (1) 事前対策

- ① ハウスの被覆資材など傷んでいる箇所は、風雨が吹き込むので修復しておく。また、ゆるんでいるマイカー線の張り直しや基礎の杭等の補強を行う。
- ② 雨水がたまりやすいほ場は、事前に排水溝を掘っておく。また、ハウス内に雨水が流入しないように、土のう積み等の防水対策を図る。
- ③ 露地野菜の支柱や誘引線、ほ場まわりの防風網はあらかじめ補強しておく。
- ④ 果菜類等で収穫期に達しているものはやや早めに収穫し、被害を最小限に抑える。

### (2) 事後対策

- ① ハウス施設やほ場に浸水した場合は、早期に排水溝を掘り排水に努める。
- ② ハウスや防風網を点検して、損傷箇所があれば早めに補修する。
- ③ 茎葉の損傷、湿度の高まりにより、病害の発生が助長されるので適用農薬を散布する。（アミスター・ダコニール剤）特に、使用時期の収穫前日数に注意する。
- ④ 天候回復後、草勢回復のために追肥として液肥の灌水を行う。
- ⑤ 排水後土壌表面が固結している軟弱野菜のほ場では、土壌が乾燥しほ場に入ることが可能になったら、浅く中耕する。
- ⑥ 果菜類で被害を受けた果実は摘果し、着果負担を軽くさせて草勢回復を図る。
- ⑦ 露地ナスなどの倒伏した果菜類の株は可能な限り起こすとともに、支柱や誘引線に誘引を行う。またネギが倒伏した場合も同様に起こし、軟白部が曲がるのを防ぐ。
- ⑧ 収穫した野菜は、傷みがないか良く確認しながら調製作業を行い、流通中に発生する荷傷みや腐敗の発生を防ぐ。

## 4 果 樹

### (1) 事後前対策

- ① 多目的防災網や防風ネットの緩んでいるワイヤーやひもは張り直し、ネットがずれたり、飛ばされないように補強する。また、ネットが破れている部分を補修する。
- ② 隅柱、中柱の横ぶれ、架線の張り等を点検し必要に応じしめなおす。
- ③ 雨除けビニールが被覆してある場合は、飛ばされないように補強する。
- ④ 園内に水が溜まらないように排水溝を掘るなど、十分な排水対策を行う。

### (2) 事後対策

- ① 袋の損傷が著しい場合は掛けかえる。
- ② 果実のすり傷、葉の裂傷等から病害発生のおそれがある場合は、速やかに適用薬剤を散布する。なお、薬剤散布にあたっては使用基準を厳守する。

## 5 花 き

### (1) 事前対策

- ① 湿害の発生しやすいほ場では、周囲に排水溝を設け、速やかに排水できるようにしておく。また、ハウス内に雨水が流入しないように、必要に応じて土のう積み等の防水対策を図る。
- ② ハウスは必要に応じて補強・破損箇所の補修等を行い、風で飛ばされないよう対処する。
- ③ 倒伏しやすい切り花類では、十分に土寄せを行うとともに、ネットや支柱を補強しておく。

### (2) 事後対策

- ① 冠水、浸水したほ場では、速やかに排水に努めるとともに、肥培管理を的確に行い生育の回復に努める。
- ② 切り花類等で株元が土砂で埋まって深植え状態になったものは、早期に土砂を取り除き天候の回復を待って浅く中耕する。
- ③ 切り花類の倒伏したものは、できるだけ早く起こし茎の曲がりを防ぐ。
- ④ 枝物類・切り花類は、強風によって折損した茎葉の整理と薬剤散布を的確に行い、病害の発生を防止する。

**農薬の散布時は、特に作物や使用時期の収穫前日数に注意しましょう。**